

皆さんのエコ活動を応援します！

相模原市立環境情報センター

環境情報センターは皆さんが環境について学習、活動を行ったり情報を得たりするための施設です。お気軽にご利用いただき皆さんの学習や活動にお役にたください。



環境情報センターの運営者が変わりました

4月より相模原市立環境情報センターの指定管理者として株式会社ウィッツコミュニティが施設を運営させていただくことになりました。相模原市の環境保全・環境教育に貢献することを目的に、普及・支援活動を行なっています。引き続き、利用者の方の環境について「知りたい・学びたい・活動したい」が実現できるよう、専門的知識を持った職員の増員、新しい講座の開催など、柔軟で創意あるサービスの提供を目指していきます。

環境情報センターの取り組みを一部ご紹介！

「環境講座」の実施

地球温暖化・生物多様性・消費削減など環境問題や専門的な知識を学べる講座を開催しています。対象は成人の方だけでなく、お子様とご家族と一緒に環境問題へ興味を持ってもらえるイベントなども実施しています。



相模原市自然環境観察員制度の運営

多くの方に身近な自然環境への関心を持っていただくことを目的に自然環境観察員を募集、市内の植物・野鳥・河川生物・湧水環境などを対象に、調査や学習会を行っています。



「エコネットの輪」の運営

市民活動団体・事業者・大学・行政などから、環境学習プログラムや環境情報等を提供していただき、学校や地域で行われる環境学習や活動をサポートしていくシステムを運営しています。

環境のちょこつと話 No.27

「お米を食べて田んぼの生きものを応援しよう」

東京オリンピックをひかえ、有機栽培で育てられた農産物に注目が集まっています。農薬を使わないで栽培すると、今回紹介した田んぼに暮らす多くの生きものを元気にすることができます。日本の田んぼに暮らす生きものは5,668種もいます。

戦後、農薬や化学肥料をたくさん使うようになり、機械化が進み、田んぼの水を抜きやすくする工事が進められ、田んぼの生きものはだんだんかたがせまくなっています。一方、トキ、コウノトリ、ガン、タグリなどの生きものが、共に暮らせるように工夫しながらコメ作りに取り組む農家や地域がふえています。千葉県のみすみ市では、2017年から子どもたちが給食で食べるお米すべてが無農薬栽培のお米になりました。

生きものを育てる農法で作られたお米を、わたしたちが積極的に選んでたくさん食べると、農家の人ももっとがんばって作ってくれるようになります。すると、田んぼの生きものも今よりもっと元気になります。お米は値段が高い！と思っている方も多いようですが、高級米でもお茶わん一杯40円くらいです。

お米を食べて、田んぼの生きものを応援していきましょう！



相模原市立環境情報センター

〒252-0236
相模原市中央区富士見 1丁目3番41号
TEL. 042-769-9248 FAX. 042-751-2036

- Eメール kankyo@eic-sagamihara.jp
- ホームページ <http://eic-sagamihara.jp/>
- 開所時間 午前9時～午後5時
- 休所日 毎週木曜日、年末年始、施設点検日



交通

- JR相模原駅から
 - 徒歩約20分
 - J/S「市役所前」下車徒歩1分
「ウェルネスさがみはら前」下車すぐ
 - JR上溝駅から
 - J/S「市役所前」下車徒歩1分
 - 車でお越しの方
環境情報センター及び周辺の市役所駐車場をご利用ください
(時間帯などの駐車は無料)
- なるべく公共交通機関をご利用ください。



環境情報センター NEWS

夏号

平成29年7月1日発行

発行：相模原市立環境情報センター

指定管理者 株式会社ウィッツコミュニティ

田んぼは生きものでいっぱい！

さがみがわ 相模川に近い開けた場所には田んぼが広がっているよ。

田んぼはお米を作る場所だということは知っているよね。

田んぼについてよ〜く調べてみると他にも大事な役割があるんだ。

こうずい 水をためて洪水を防ぐ。

水をきれいにする。

でんとう お祭りなど伝統的な文化を育む。

ゆたかな土を作る。

たくさんの生きもののすみか。

FAO(国際連合食糧農業機関)は地球上で生きものにとって特に大切な環境を3つあげています。サンゴ礁、熱帯雨林、そして田んぼです。湿地を守るための国際条約の一つ、ラムサール条約でも田んぼを守っていかようとしています。※FAOは世界中から飢えて苦しむ人を無くして、良い生活ができるように働いている国際機関です。※条約は国と国の間で取り決める約束です。

